

＝委員会報告＝

平成4年度消化器集団検診全国集計

- I. 胃集検全国集計
- II. 大腸集検全国集計
- III. 食道集検および肝胆膵集検全国集計

日本消化器集団検診学会全国集計委員会

山田	達哉 ¹⁾ ・土井	偉誉 ²⁾ ・岩崎	政明 ³⁾ ・有末	太郎 ⁴⁾
久道	茂 ⁵⁾ ・吉川	邦生 ⁶⁾ ・北	昭一 ⁷⁾ ・古賀	充 ⁸⁾
小野	良樹 ⁹⁾ ，北條	慶一 ¹⁰⁾		

平成4年度消化器集団検診全国集計

I. 胃集検全国集計 II. 大腸集検全国集計 III. 食道集検および肝胆膵集検全国集計

日本消化器集団検診学会全国集計委員会

山田 達哉¹⁾・土井 偉誉²⁾・岩崎 政明³⁾・有末 太郎⁴⁾
久道 茂⁵⁾・吉川 邦生⁶⁾・北 昭一⁷⁾・古賀 充⁸⁾
小野 良樹⁹⁾、北條 慶一¹⁰⁾

はじめに

全国集計委員会が担当する全国集計は、今回でその10回目にあたる。平成4年度の調査は前年度と同様の方法で行った。平成5年11月初め、全国の検診機関に調査票を送り、平成6年1月末日を締切とした。

I 胃集検全国集計成績

1. 胃集検全国集計対象機関の区分と機関別受診者
検診機関を区分別にみると、追跡調査や検診の統計を最もよく行っているI群の割合は、間接集検機関では348カ所中314カ所(90.2%)、直接集検では154カ所中133カ所(86.4%)であり、前年度と比較して各々2.8%、0.6%、減少していた(表1)。

平成4年度の実受診者総数は、5,995,638人で、発見胃癌の実数は6,252例(0.104%)であった。検診機関別の胃癌発見率をみると、I群は0.107%であったが、II群では0.024%、III群では0.088%と低い数値を示した。精検受診率を100%とした場合の推定発見胃癌数は8,618例(0.144%)であった(表2)。

胃集検の実受診者総数の年次別推移をみると、図1に示すように平成4年度の実受診者総数は600万人弱になっており、前年度の約625万人と比べて、約26万人、前年度比4.1%減少していた(図1)。

2. 撮影装置と撮影方法

間接X線装置の使用状況をみると、全体の985台のうち、車検診と施設検診の合計で100mm間接は975台(99.0%)、I.I.間接は969台(98.4%)で、100mm間接のI.I.方式がほぼ定着していた(表3)。

胃X線撮影法について検診機関数を分母にしてみると、撮影枚数は間接集検では5枚が0%、6枚が7.2%で、7枚が70.9%、8枚以上が21.0%で、学会の勧告した標準枚数がかなり定着していた(図2-a)。バリウムの濃度は間接集検では120-139%、直接集検では140%以上が最も多く使われ、バリウムの量は間接集検、直接集検ともに200-249mlが最も多く使われていた(図2-b、2-c)。

撮影者については、間接集検では、医師が撮影する機関は1.1%、技師が行うものは94.9%、両者で撮影するもの2.9%であった。直接集検では医師が11.7%、技師は65.0%、両者が20.1%であった(図2-d)。

3. 読影状況

読影状況についてみると、検診機関に所属する医師で読影している機関は間接で58.6%、直接で78.6%であった(図3-a)。ダブルチェックは、間接集検で80.7%の機関が行っていたが、ダブルチェックを行っていない機関が16.4%あり、直接集検では24.0%であった(図3-b)。読影委員会を設置している機関は間接集検で50.6%、直接集検で40.9%であった(図3-c)。認定医の有無についてみると、間接

-
- 1) 東京都情報処理産業健康保険組合
 - 2) 岐阜大学 放射線科
 - 3) PL東京健康管理センター
 - 4) 北海道対がん協会検診センター
 - 5) 東北大学 公衆衛生学
 - 6) 長浜赤十字病院 消化器科
 - 7) 川崎医科大学 保健医療学
 - 8) 九州がんセンター
 - 9) 日本大学 内科
 - 10) 公立昭和病院

表1 胃集検全国集計対象機関の区分（平成4年度）

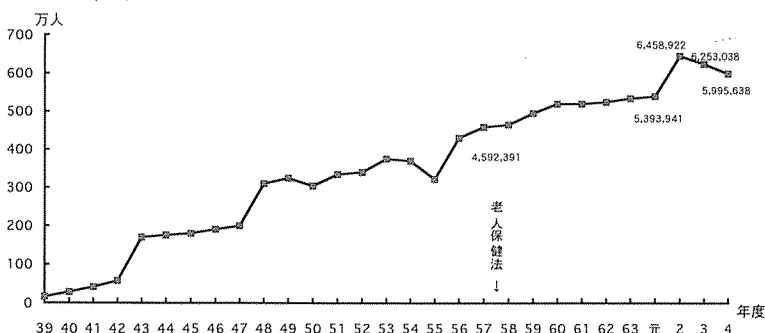
	機関数	
	1) 間接集検	2) 直接集検
I 群 性・年齢別に受診者、要精検者、精検受診者、発見胃癌患者が把握され、且つ癌患者の個人票の揃っているもの	314 (90.2%)	133 (86.4%)
II 群 性・年齢別に集計されていないもの	3	1
III 群 集計数のみ判明するもの	31	20
計	348	154

(注) : 1) 間接X線撮影による胃集検のこと
2) 直接X線撮影による胃集検のこと

表2 対象機関別受診者数と発見胃癌数
(平成4年度, 男女計, 間接, 直接の合計)

区分	受診者数	発見胃癌数 (実数)	率	(推定数)	(推定率)
I 群	5,296,254	5,661	0.107%	7,713	0.146%
II 群	36,817	9	0.024%	38	0.103%
III 群	662,567	582	0.088%	867	0.131%
総計	5,995,638	6,252	0.104%	8,618	0.144%

*推定率は各群の精検受診率（I 群73.4%、II 群23.8%、III 群67.1%）を100とした場合、未受診者も受診者と同じ率で、胃癌が発見されるものとして算出したもの

図1 胃集検の年度別集計対象数の推移
(昭和39～平成4年度学会による全国集計)

集検を行っている検診機関では58.1%, 直接集検の機関では、56.5%に認定医がいるという状況であった（図3-d）。

4. 精検後の管理

精検以後の管理の方法について、間接集検の場合について述べると、精検の実施方法では、自機関または一部他機関に委託しているもの67.0%, 全部を他機関に委託しているもの29.6%であった（図4-a）。要精検者に対する受診勧奨をしているのは93.6

%（図4-b）, 精検結果の把握をしているところは96.2%（図4-c）, 精検未受診者への受診勧奨を行っているのは82.5%（図4-d）, 発見胃癌患者への治療の勧奨を積極的に進めているところは80.1%（図4-e）, 手術結果の調査をしているところは77.6%（図4-f）, またその予後調査をしているところは37.9%であった（図4-g）。直接集検の場合は、発見癌患者への治療の勧奨をしているところが86.4%, 手術結果の調査をしているところは83.1%, 患者の

予後調査をしているところは35.7%であった(図4-e~g)。

5. 稼動状況

間接集検での一台当りの年間稼動日数は車検診で平均131~165日, 施設検診で129~154日であった。一日当りの検診数は車検診で平均24~33人, 施設検診で15~24人であった(表4)。

直接集検の場合, 施設検診だけになるが, 一台当りの年間稼動日数, 一台一日当りの検診数は表5に示すとおりである(表5)。

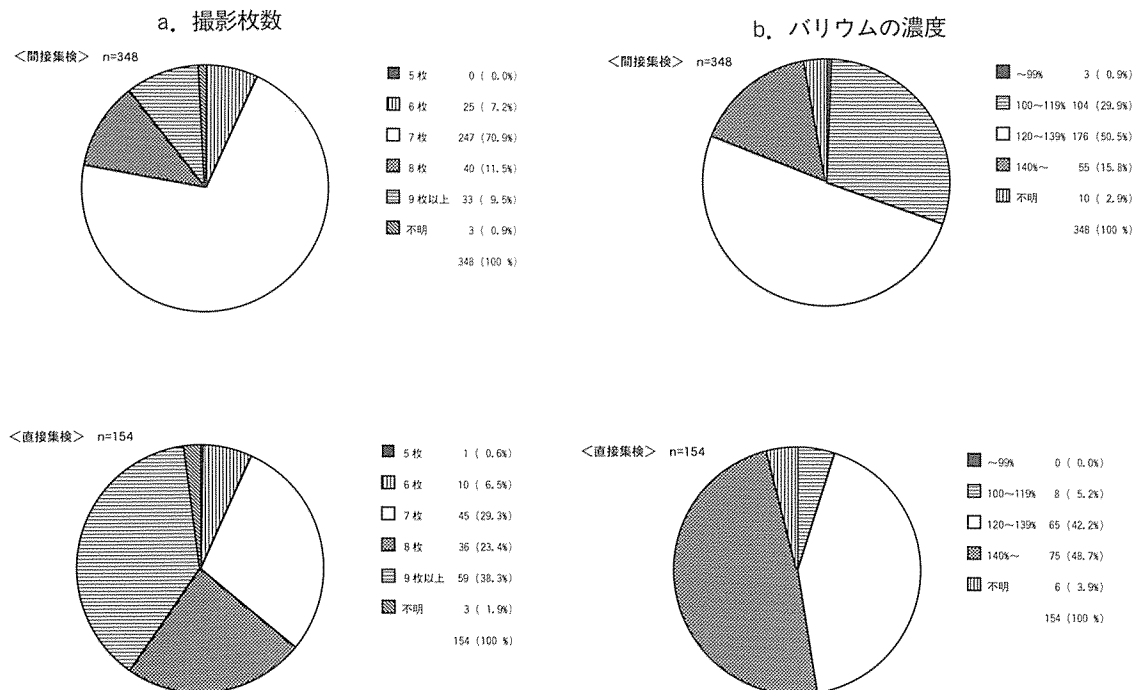
6. 地域・職域検診別の集検成績

地域検診と職域検診に分けて検討すると, 地域検診が3,187,407人, 職域検診が2,626,237人で前者が約55%を占めていた。地域検診と職域検診との要精検率を比較すると, 地域検診で13.6%, 職域検診12.8%と, その差は殆ど認められなかったのに対し, 精検受診率を比較してみると, 各々83.2%と58.7%であり, 両者に著しい差が認められ, 職域検診の一次検診後の管理に依然として不備が感じられた。その結果, 後述する職域検診での39歳以下の若年受診者

表3 間接X線装置の使用状況とフィルムサイズ(平成4年度)

		車検診		施設検診		計
		70 mm	100 mm	70 mm	100 mm	
I 群	I.I. 間接	9 台	685 台	0 台	169 台	863 台
	その他	1 台	10 台	0 台	3 台	14 台
	小計	10 台	695 台	0 台	172 台	877 台
II 群	I.I. 間接	0 台	4 台	0 台	0 台	4 台
	その他	0 台	0 台	0 台	0 台	0 台
	小計	0 台	4 台	0 台	0 台	4 台
III 群	I.I. 間接	0 台	82 台	0 台	20 台	102 台
	その他	0 台	2 台	0 台	0 台	2 台
	小計	0 台	84 台	0 台	20 台	104 台
計(台)		10 台	783 台	0 台	192 台	985 台

図2



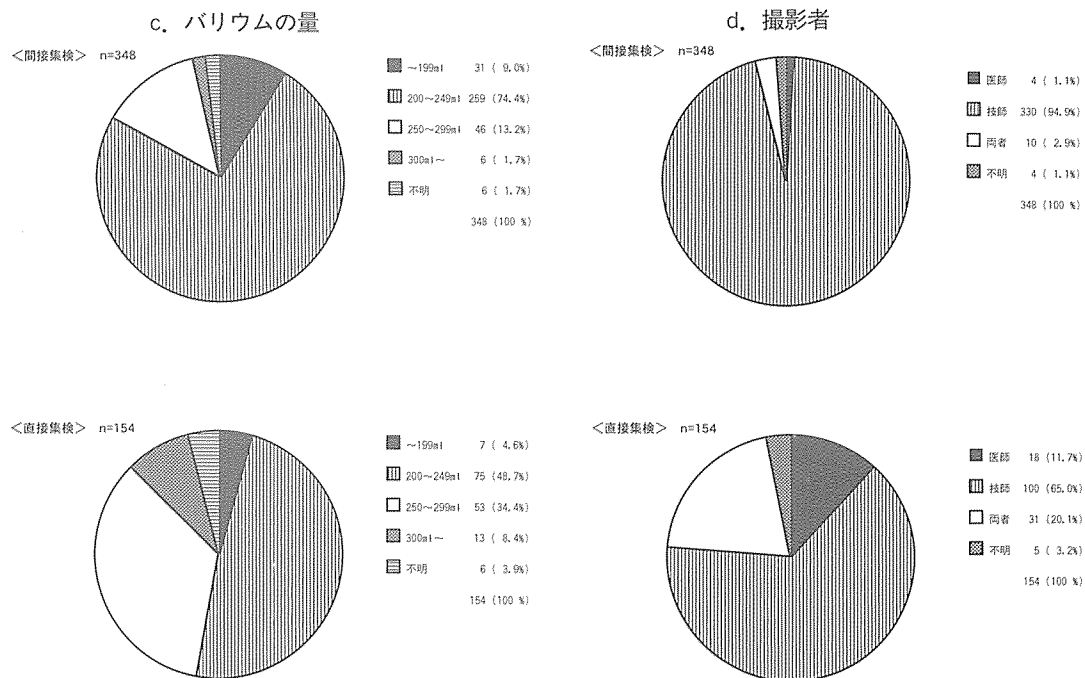
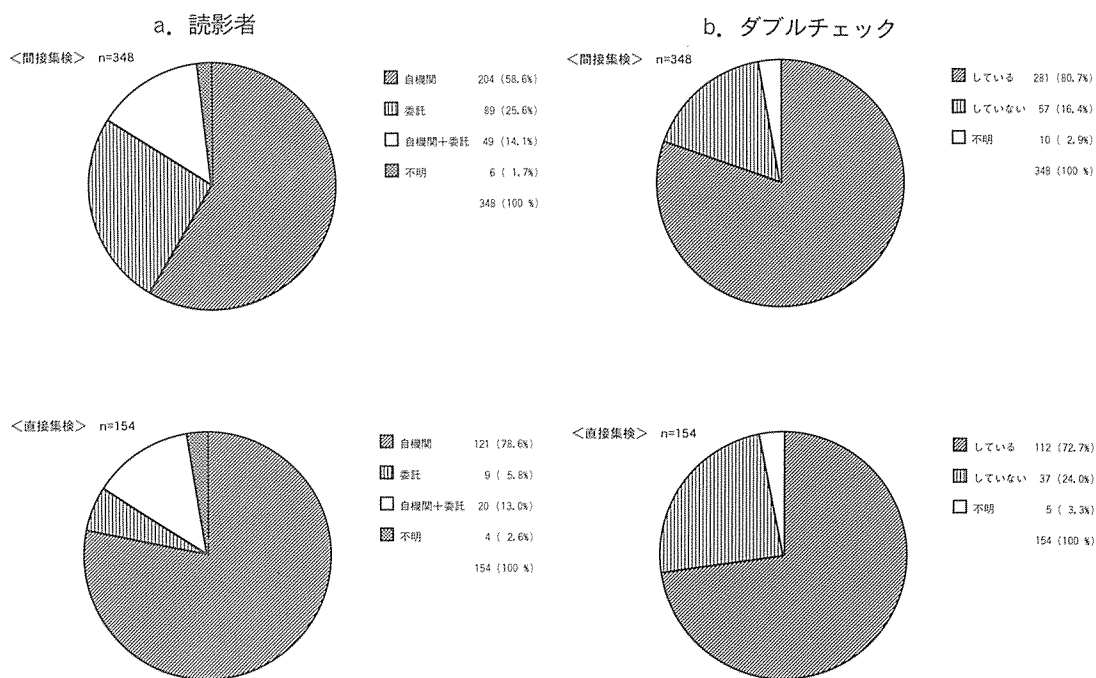
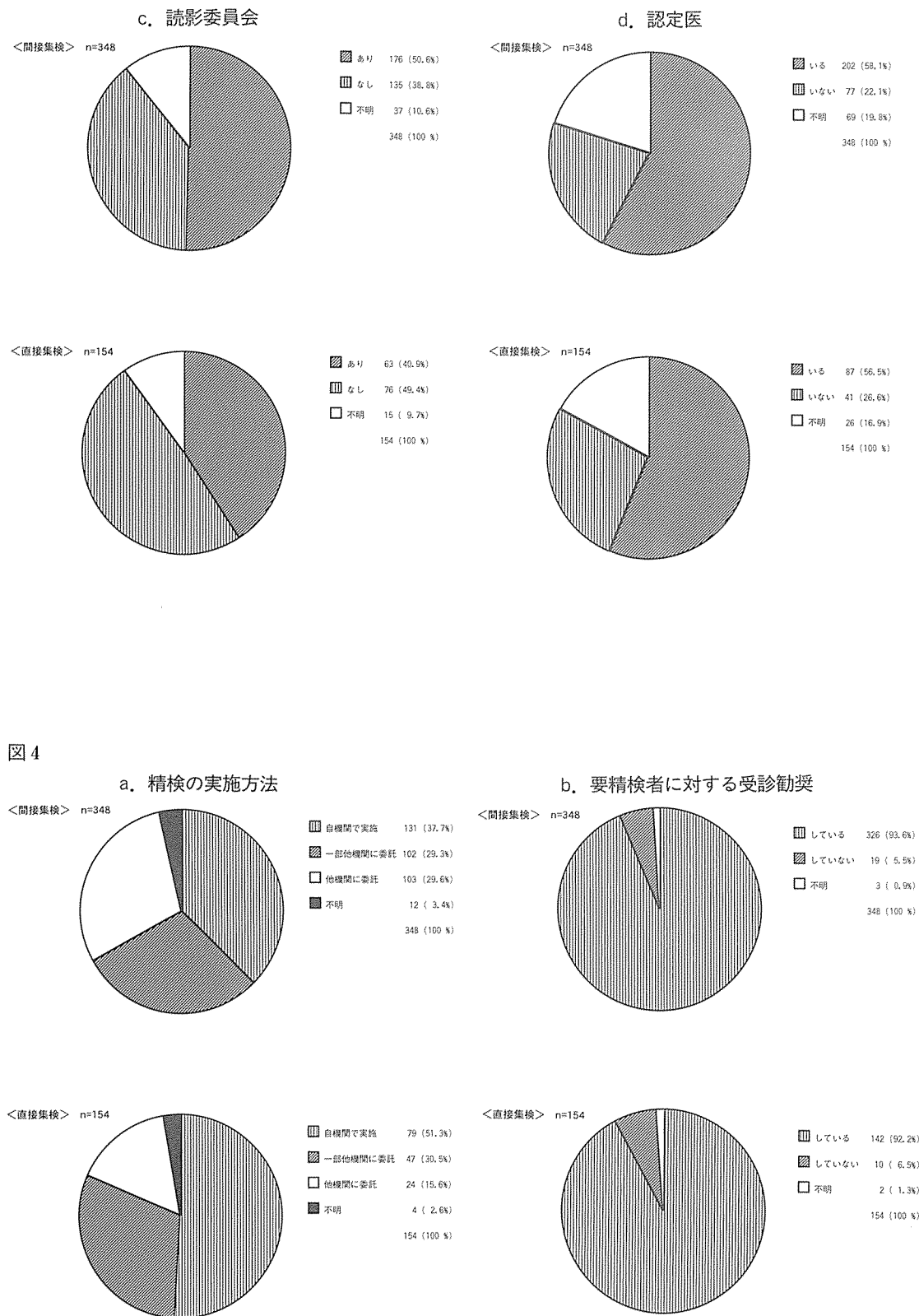


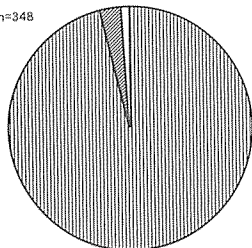
図3





c. 精検結果の把握

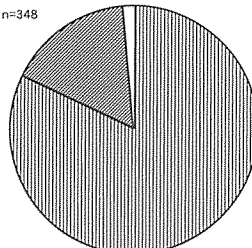
<間接集検> n=348



■ している 335 (96.2%)
 ■ していない 10 (2.9%)
 □ 不明 3 (0.9%)
 348 (100%)

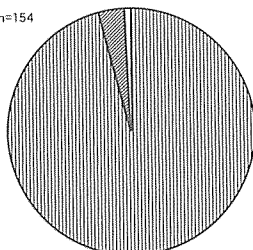
d. 精検未受診者への受診勧奨

<間接集検> n=348



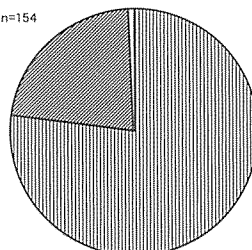
■ している 287 (82.5%)
 ■ していない 56 (16.1%)
 □ 不明 5 (1.4%)
 348 (100%)

<直接集検> n=154



■ している 148 (96.1%)
 ■ していない 5 (3.3%)
 □ 不明 1 (0.6%)
 154 (100%)

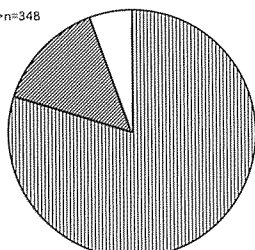
<直接集検> n=154



■ している 119 (77.3%)
 ■ していない 34 (22.1%)
 □ 不明 1 (0.6%)
 154 (100%)

e. 発見癌患者の管理

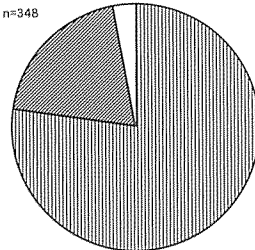
<間接集検> n=348



■ 治療をするよう勧めている 279 (80.1%)
 ■ していない 50 (14.4%)
 □ 不明 19 (5.5%)
 348 (100%)

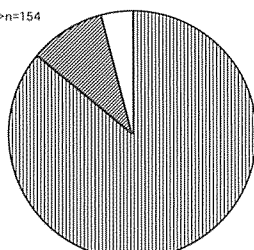
f. 手術結果の調査

<間接集検> n=348



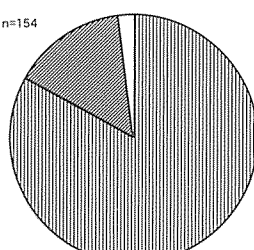
■ している 270 (77.6%)
 ■ していない 68 (19.5%)
 □ 不明 10 (2.9%)
 348 (100%)

<直接集検> n=154



■ 治療をするよう勧めている 133 (86.4%)
 ■ していない 15 (9.7%)
 □ 不明 6 (3.9%)
 154 (100%)

<直接集検> n=154



■ している 128 (83.1%)
 ■ していない 23 (14.9%)
 □ 不明 3 (2.0%)
 154 (100%)

g. 発見癌患者の予後調査

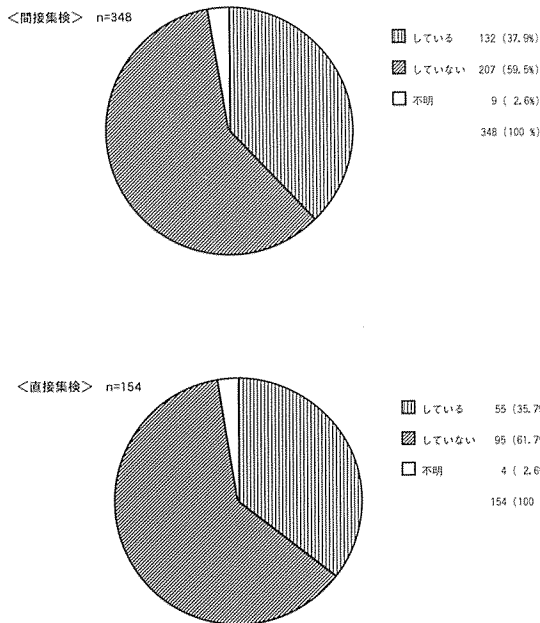


表4 間接集検の稼働状況（平成4年度）

		車検診	施設検診
一台当たりの年間稼働日数	I 群	131 日	129 日
	II 群	165 日	0 日
	III 群	137 日	154 日
一台一日当たりの検診数	I 群	33 人	15 人
	II 群	24 人	0 人
	III 群	32 人	24 人

表5 直接集検の稼働状況（平成4年度）

一台当たりの年間稼働日数	I 群	187 日
	II 群	288 日
	III 群	164 日
一台一日当たりの検診数	I 群	10 人
	II 群	17 人
	III 群	4 人

表6 地域・職域検診別の集検成績

(I, II, III群, 間接・直接集検の合計, 平成4年度)

	地域検診	職域検診	計
検 診 数	3,187,407	2,626,237	5,813,644
要 精 検 者 数	434,224	336,560	770,784
要 精 検 率	13.6 %	12.8 %	13.3 %
精検受診者数	361,190	197,593	558,783
精 検 受 診 率	83.2 %	58.7 %	72.5 %
発 見 胃 癌 数	4,808	1,278	6,086
発 見 率	0.15 %	0.05 %	0.10 %
早 期 胃 癌 数	2,553	712	3,265
早期胃癌の割合	53.1 %	55.7 %	53.6 %

の占める割合が多いこととあいまって、職域検診での胃癌発見率は0.05%と、地域検診の0.15%の3分の1という数値であった。早期胃癌の割合は、地域の53.1%に対し、職域は55.7%、合計では53.6%であった(表6)。また、間接集検について、地域と職域検診別に検討したものを表7に示した(表7)。

7. 性・年齢階級別受診者数および疾患発見率

直接、間接、地域、職域集検を合計した性・年齢階級別の受診者数は、図5に示した。男は40歳代前半に女は50歳代後半にそのピークがあった。胃癌発見率は男で0.15%、女で0.08%、男が女の約2倍の

発見率であったが、胃ポリープは男が0.70%、女が1.10%で、逆に女の方が1.6倍発見率は高かった。胃潰瘍は男が1.52%、女が0.51%で、男が3.0倍であった(表8, 9)。

胃集検の対象年齢が40歳以上であるにもかかわらず、39歳以下の受診者は男女あわせて約50万人おり、これは全受診者数の10.7%を占めていた。これを地域と職域検診に分けてみると、地域検診では39歳以下は男女あわせて134,199人、4.7%であったのに対し(図6)、職域検診では39歳以下が367,985人、21.5%と、39歳以下の若年層受診者の占める頻度が4.6倍

表7 地域・職域検診別の集検成績
(Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ群, 間接集検, 平成4年度)

	地域検診	職域検診	計
検 診 数	3,081,545	1,859,934	4,941,479
要 精 検 者 数	415,223	227,764	642,987
要 精 検 率	13.5 %	12.2 %	13.0 %
精検受診者数	346,857	137,993	484,850
精 検 受 診 率	83.5 %	60.6 %	75.4 %
発 見 胃 癌 数	4,559	811	5,370
発 見 率	0.15 %	0.04 %	0.11 %
早 期 胃 癌 数	2,398	428	2,826
早期胃癌の割合	52.6 %	52.8 %	52.6 %

図5 性・年齢階級別受診者数(平成4年度)
(地域, 職域, 直接・間接合計)

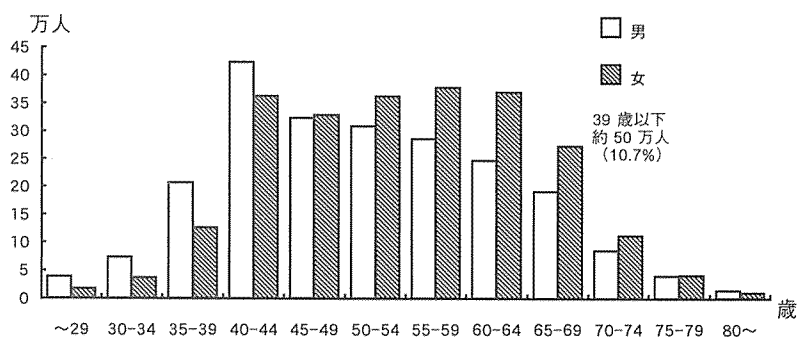


表8 性・年齢別胃集検全国集計成績—男性—直接・間接, 地域職域集検合計(平成4年度)

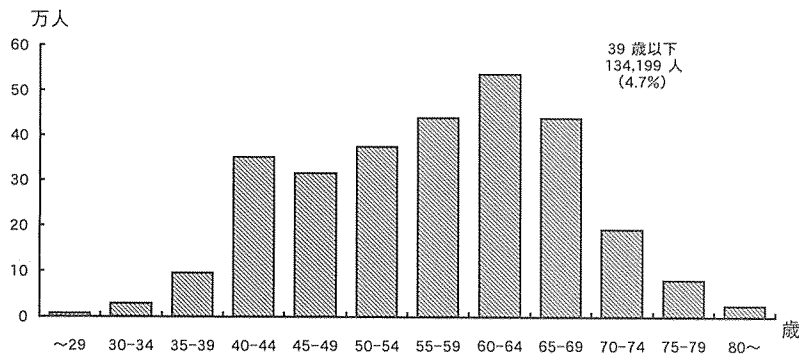
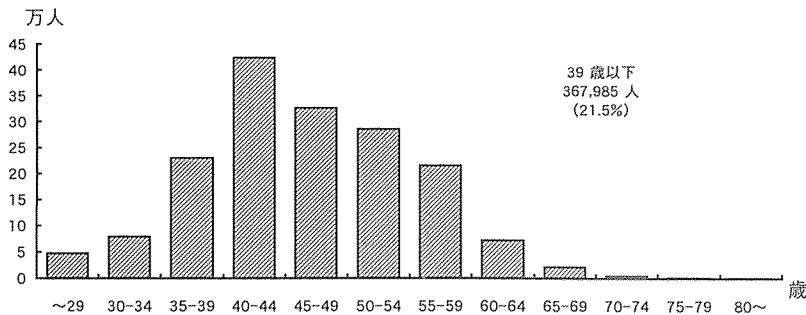
	総 数	29 以下	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80 以上	70以上*
A 集検受診者数	2,270,599	38,876	73,247	206,912	423,915	323,885	308,507	285,841	246,871	191,442	85,397	40,611	14,898	19,312
B 要精検者数	365,292	3,101	7,116	24,086	58,827	47,514	49,835	51,663	48,917	39,806	17,665	8,304	2,980	4,078
B/A %	16.09 %	7.98 %	9.72 %	11.64 %	13.88 %	14.67 %	16.15 %	18.07 %	19.81 %	20.79 %	20.69 %	20.45 %	20.00 %	21.12 %
C 精検受診者数	263,126	1,806	4,511	15,466	39,615	31,722	34,088	36,271	37,799	32,805	15,150	7,123	2,437	3,381
C/B %	72.03 %	58.24 %	63.39 %	64.21 %	67.34 %	66.76 %	68.40 %	70.21 %	77.27 %	82.41 %	85.76 %	85.78 %	81.78 %	82.91 %
D 胃癌	3,410	2	5	39	134	150	250	445	683	809	429	252	101	110
D/A %	0.15 %	0.01 %	0.01 %	0.02 %	0.03 %	0.05 %	0.08 %	0.16 %	0.28 %	0.42 %	0.50 %	0.62 %	0.68 %	0.57 %
うち早期癌	1,962	1	2	17	90	89	147	264	392	466	244	147	44	58
胃癌切除数	2,443	1	4	26	100	104	184	304	504	599	322	184	54	57
組織所見判明数	2,344	1	4	23	90	103	179	296	482	574	305	174	57	56
胃癌疑い	150	0	0	3	23	19	16	22	26	18	8	4	6	5
非上皮性悪性腫瘍	52	1	1	3	6	3	10	9	8	7	1	2	1	0
胃腺腫(異型上皮)	1,047	7	12	19	100	79	98	143	158	196	109	51	14	61
胃ポリープ	16,044	49	164	566	1,488	1,528	1,932	2,505	2,731	2,494	1,330	663	255	313
胃潰瘍	34,611	107	418	1,811	5,504	4,589	4,626	4,932	5,040	4,255	1,880	728	243	407
十二指腸潰瘍	13,584	145	415	1,386	2,955	1,959	1,821	1,741	1,426	981	351	137	54	89
胃・十二指腸潰瘍	5,505	19	80	348	931	837	893	795	739	508	207	90	21	27
その他良性疾患	90,323	512	1,272	4,583	12,358	10,256	11,518	12,660	13,883	12,290	5,816	2,815	960	1,183
異常なし	93,332	931	2,035	6,382	15,300	11,666	12,331	12,376	12,443	10,606	4,683	2,214	705	1,157

* 70歳以上をさらに年齢区分をしていないもの

表9 性・年齢別胃集検全国集計成績—女性—直接・間接，地域職域集検合計（平成4年度）

	総 数	29 以下	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80 以上	70以上*
A 集検受診者数	2,448,404	17,309	37,099	126,428	363,033	328,864	362,369	378,312	369,971	272,958	112,258	41,353	10,494	22,648
B 要精検者数	258,529	845	2,454	9,265	30,499	29,195	35,877	41,148	44,329	36,595	16,144	6,419	1,718	3,612
B/A %	10.56 %	4.88 %	6.61 %	7.33 %	8.40 %	8.88 %	9.90 %	10.88 %	11.98 %	13.41 %	14.38 %	15.52 %	16.37 %	15.95 %
C 精検受診者数	215,813	567	1,828	7,050	24,275	23,397	29,286	34,635	38,327	31,929	14,172	5,476	1,389	3,149
C/B %	83.48 %	67.10 %	74.49 %	76.09 %	79.59 %	80.14 %	81.63 %	84.17 %	86.46 %	87.25 %	87.78 %	85.31 %	80.85 %	87.18 %
D 胃癌	1,891	1	9	38	127	143	187	277	352	365	200	112	26	52
D/A %	0.08 %	0.01 %	0.02 %	0.03 %	0.03 %	0.04 %	0.05 %	0.07 %	0.10 %	0.13 %	0.18 %	0.27 %	0.25 %	0.23 %
うち早期癌	1,103	1	3	24	69	80	104	169	218	217	110	66	12	28
胃癌切除数	1,271	1	8	23	81	92	117	197	235	253	140	80	16	26
組織所見判明数	1,174	1	6	21	78	89	106	174	216	237	129	74	18	23
胃癌疑い	160	0	2	1	23	16	26	26	19	26	10	2	1	8
非上皮性悪性腫瘍	32	0	0	4	7	6	4	2	2	4	2	1	0	0
胃腺腫（異型上皮）	545	0	4	6	33	42	49	78	104	112	55	21	9	32
胃ポリープ	26,974	29	175	666	2,411	2,511	3,359	4,481	5,289	4,507	2,012	770	202	529
胃潰瘍	12,650	16	73	345	1,419	1,356	1,750	1,969	2,188	1,837	923	415	112	236
十二指腸潰瘍	6,514	24	74	309	1,024	857	1,013	1,041	977	737	284	78	19	63
胃・十二指腸潰瘍	2,755	3	12	99	331	321	440	485	482	337	164	65	8	8
その他良性疾病	66,156	136	475	1,736	6,324	6,443	8,606	10,847	12,271	10,734	5,069	1,947	516	996
異常なし	91,471	352	959	3,688	11,816	10,942	12,994	14,380	15,414	12,230	4,979	1,887	413	1,200

* 70歳以上をさらに年齢区分をしていないもの

図6 地域検診の年齢階級別受診者数（平成4年度）
（直接・間接，男女合計）図7 職域検診の年齢階級別受診者数（平成4年度）
（直接・間接，男女合計）

高かった。（図7）。

8. 発見疾患の年次推移

表10は各胃疾患の発見率の年度別推移を表したも

のである。受診者総数（C）は，性別，5歳階級別に各疾患の発見数と頻度が算出可能なものを分母として算出したものである。表のうち，Aは発見実数，

表10 発見疾患とその頻度（年次別推移）（男女計）

年度 胃疾患	63	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年
A	5,815	4,477	5,823	5,724	5,310
B	7,269	6,238	7,781	7,415	6,920
B/C	0.16	0.14	0.14	0.15	0.15
A	36,444	28,905	41,267	42,480	43,068
胃ポリープ B	45,555	40,274	55,140	55,026	56,128
B/C	0.99	0.88	1.01	1.12	1.19
A	56,304	41,323	56,305	53,639	47,436
胃潰瘍 B	70,380	57,577	75,234	69,481	61,821
B/C	1.52	1.25	1.38	1.42	1.31
A	24,093	17,860	26,454	22,386	20,221
十二指腸潰瘍 B	30,116	24,855	35,347	28,997	26,353
B/C	0.65	0.54	0.65	0.59	0.56
受診者総数	4,622,713	4,590,026	5,437,244	4,906,647	4,736,381

*性別、5歳階級別に集計可能な受診者数を母数とした

A：実数、 B：要精検者が全員精検を受診した場合の推定数、 C：受診者総数

表11a 治療の種類
(平成4年度)

総 数	5,524
外科手術	5,171
内視鏡的治療	219
化学療法	43
無治療	51
その他	40

表12 発見胃癌の占居部位
(平成4年度)

部 位	病巣数	%
C	914	15.4
M	2,764	46.4
A	2,151	36.2
全 体	120	2.0
合 計	5,949	100.0

表11b 手術の種類
(平成4年度)

総 数	5,051
治癒切除	4,649
非治癒切除	304
吻合術	38
造 瘻	8
単 開 腹	42
ポリープ摘除術	10

表13 発見胃癌の占居部位Ⅱ
(平成4年度)

部 位	病巣数	%
小 弯	1,957	33.5
大 弯	812	13.9
前 壁	1,220	20.9
後 壁	1,578	27.1
全 周	271	4.6
合 計	5,838	100.0

表11c 癌病巣の数
(平成4年度)

単 発	5,304
2 個	302
3 個	45
4個以上	17
合 計	5,668

Bは要精検者が全員精検を受診した場合の推定患者数で、B/Cは推定発見率である。平成4年度は、胃癌0.15%、胃ポリープ1.19%、胃潰瘍1.31%、十二指腸潰瘍0.56%であった（表10）。

9. 発見胃癌患者の追跡調査

1) 手術成績

集計個票が全国集計委員会に送られてきた発見胃癌の成績をみると、治癒切除は、5,524例中4,649例（84.2%）であった（表11a、b）。多発癌は5,668例中364例（6.4%）を占めていた（表11c）。

2) 占居部位

発見胃癌の占居部位は、CMA区分で、多発癌も含

めた病巣数でみると、Cが15.4%、Mが46.4%、Aが36.2%であった(表12)。壁在性でみると小彎が33.5%が最も多く、次いで後壁が27.1%で(表13)、前年度とほぼ同様な傾向がみられた。

3) 大きさ

長径1cm以下の小胃癌が19.3%、1.1～2.0cmが22.4%で、あわせて41.7%であった(表14)。昨年度の37.8%に比べ小さい癌の発見頻度は増加していた。

4) 切除胃癌の深達度別割合

切除胃癌の深達度別頻度をみると、5,530例のうち、m癌が38.5%、sm癌が27.6%、あわせて66.1%であり、前年度より1.2%増加していた(表15)。

5) Stage分類

Stage Iは66.0%、Stage IIは13.5%、Stage IIIは13.1%、Stage IVは7.4%であった(表16)。

6) 肉眼分類

従来と同様早期癌ではⅡc型が最も多く57.0%を占めていた。進行癌のうち、4型が12.7%で、早期癌、進行癌あわせた全胃癌に占める4型の割合は4.3

%であった(表17、18)。

7) 発見胃癌例の集検受診前歴

受診前歴の記載された胃癌4,705例について、集検受診歴区分でみると、初回発見例が全胃癌のうち24.9%を占め、1年前受診例、即ち2年連続受診で発見されたものが52.9%を占めた。

各受診歴区分毎の胃癌に占める早期胃癌の割合は図8の通りで、初回発見例が59.7%と最も低く、1年前受診群が69.6%と最も高く、初回発見群と1年前受診群との間に0.1%以下の危険率で有意差が認められた。さらに、2年前、3年前、4年前受診群の早期癌割合は各々63.8%、66.8%、66.0%であった(図8)。

10. 内視鏡胃集検の全国集計成績

一次スクリーニングとして内視鏡を用いた、いわゆる内視鏡胃集検は、X線撮影法による胃集検のような受診者の性年齢区分をした詳細な集検成績の回答は求めず、前年度と同様簡単な集計にとどめた。対象も前年度と同様に、年間500人以上の内視鏡胃集検を施行した7ヵ所のみに限定した。このような条

表14 発見胃癌の大きさ
(平成4年度)

長径(cm)	病巣数	%
～10	1,039	19.3
1.1～2.0	1,205	22.4
2.1～5.0	2,169	40.2
5.1～	973	18.1
合 計	5,386	100.0

表15 切除胃癌の深達度別頻度 (平成4年度)

総数	m	sm	pm	ss	s
5,530 (100.0 %)	2,130 (38.5 %)	1,523 (27.6 %)	621 (11.2 %)	651 (11.8 %)	605 (10.9 %)
	m+sm	pm	ss+s		
	3,653 (66.1 %)	621 (11.2 %)	1,256 (22.7 %)		

表16 Stage分類 (平成4年度)

Stage	例 数	%
I	3,457	66.0
II	708	13.5
III	686	13.1
IV	386	7.4
計	5,237	100.0

表17 早期胃癌の肉眼分類 (平成4年度)

肉眼分類	例 数	%
I	254	6.6
II a	510	13.2
II a+II c	363	9.4
II b	54	1.4
II c	2,198	57.0
II c+III	193	5.0
II c+II a	127	3.3
III+II c	33	0.9
III	21	0.5
その他の組み合わせ	105	2.7
計	3,858	100.0

表18 進行胃癌の肉眼分類 (平成4年度)

肉眼分類	例 数	%
1型	178	8.9
2型	596	29.9
3型	676	33.9
4型	253	12.7
5型	292	14.6
計	1,995	100.0

図 8 発見胃癌例の集検受診歴と早期胃癌の頻度（平成 4 年度）

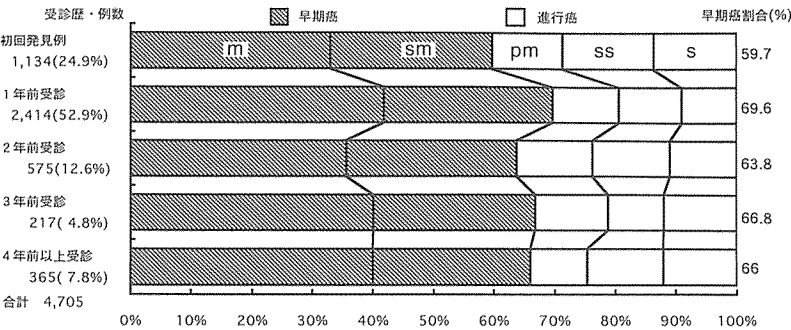


表19 内視鏡胃集検の全国集計成績
（平成 4 年度）

受診者総数	28,080 人
男	18,709 人（66.6 %）
女	9,371 人（33.4 %）
発見疾患と発見率	
胃癌	43（0.2 %）
（うち早期癌 34 名）	（0.1 %）
胃潰瘍	963（3.4 %）
胃ポリープ	918（3.3 %）

（年間500人以上実施し、集計可能な機関についての集計）

表20 大腸集検全国集計対象機関の区分
（平成 4 年度）

	機関数
I 群 性・年齢別に受診者、要精検者、精検受診者、発見大腸癌患者が把握され、且つ癌患者の個人票の揃っているもの	103
II 群 性・年齢別に集計されていないもの	0
III 群 集検数のみ判明するもの	21
計	124

件で集計すると、内視鏡集検の受診者総数は28,080人、発見胃癌43例（発見率0.2%）であった。そのうち早期胃癌の占める割合は34例、79.1%と高率であった（表19）。

II 大腸集検全国集計

平成 4 年度に実施された大腸集検の全国集計調査に回答を寄せた機関は124ヵ所である（表20）。

1. 大腸検診の受診対象

大腸検診の受診対象は表21に示すように重複回答であるが、124検診機関のうち地域検診は70.2%、職域検診は81.5%、個人検診は29.0%で行われていた。前年度と比べほぼ同様の傾向を示した。受診者の対象年齢は年齢制限無しの方が52.4%で最も多く、40歳以上の群が37.9%で、50歳以上の群は0.8%であっ

表21 大腸検診の対象（重複回答）
（平成 4 年度）

地域	職域	個人	検診機関数
87 (70.2 %)	101 (81.5 %)	36 (29.0 %)	124

表22 大腸検診の Screening の方法
（平成 4 年度）

(1) 検便法	43 (34.7 %)
(2) 検便法+問診	82 (66.1 %)
(3) 直接法	1 (0.8 %)
検診機関数	124

た。

2. 大腸検診の実施方法

大腸検診のスクリーニングの方法は、重複回答であるが、検便法だけによるものが34.7%、検便法に問診を加えた方法が66.1%であった（表22）。便潜血テストのうち、生化学的方法を用いているところはなく、免疫学的方法がすべての機関で施行されており、免疫法がわが国で定着したことがうかがわれる。

3. 大腸検診の成績

平成 4 年度に行われた全国の男女合計の受診者総数は1,851,107人で前年度に比べ約80万人（76%）増加していた。要精検率は6.55%、大腸癌発見数は2,793例（0.15%）、うち早期大腸癌の割合は58.9%であった。対象区分別にみると大腸癌の発見率は個人検診0.20%、地域検診0.19%、職域検診0.07%の順であった（表23）。

地域、職域、個人検診のうち、年齢が5歳階級別に報告された男女合計1,306,316人について年齢別頻度を検討すると、受診者数の年齢分布は40歳代前半にピークがあり、40歳代と50歳代があわせて57.5%、

表23 大腸検診成績（男女計，平成4年度）

	地域	職域	個人	計
(1) 受診者数	1,083,097	601,367	166,643	1,851,107
(2) 要精検者数	76,323	30,516	14,499	121,338
(2)÷(1) (%)	(7.05 %)	(5.07 %)	(8.70 %)	(6.55 %)
(3) 精検受診者数	53,536	14,662	7,071	75,269
(3)÷(2) (%)	(70.14 %)	(48.05 %)	(48.77 %)	(62.03 %)
(4) 大腸癌患者数	2,017	446	330	2,793
(4)÷(1) (%)	(0.19 %)	(0.07 %)	(0.20 %)	(0.15 %)
(5) 早期癌割合	1,139	280	225	1,644
(5)÷(4) (%)	(56.5 %)	(62.8 %)	(68.2 %)	(58.9 %)

図9 大腸検診受診者数の年齢階級別分布

(地域，職域，個人，男女計，平成4年度，総数1,306,316名)

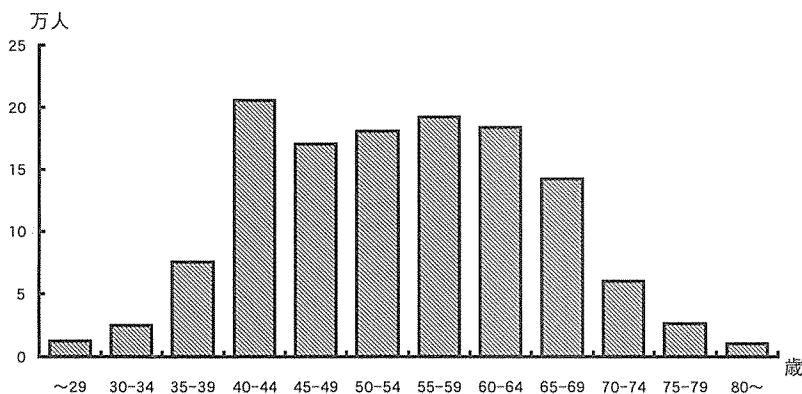
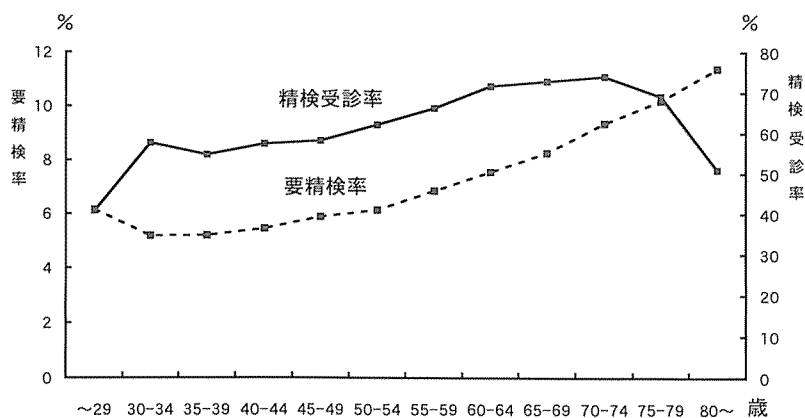


図10 大腸検診の要精検率および精検受診率

(地域，職域，個人，男女計，平成4年度)



また、39歳以下は9.2%，また、70歳以上は8.3%を占めた(図9)。要精検率をみると、ほぼ加齢に伴って上昇しており、5.2～11.4%の数値を示した。精検受診率は29歳以下が特に低く40%であった。それ以外

の年齢層でも75%を越えたものはなく、昨年度よりも精検受診率は上昇しているものの、胃集検に比較して精検受診率が低い傾向がみられた(図10)。

大腸癌発見率も、ほぼ加齢に伴って上昇していた。

図11 大腸検診の大腸癌発見率及び早期癌割合
(地域、職域、個人、男女計、平成4年度)

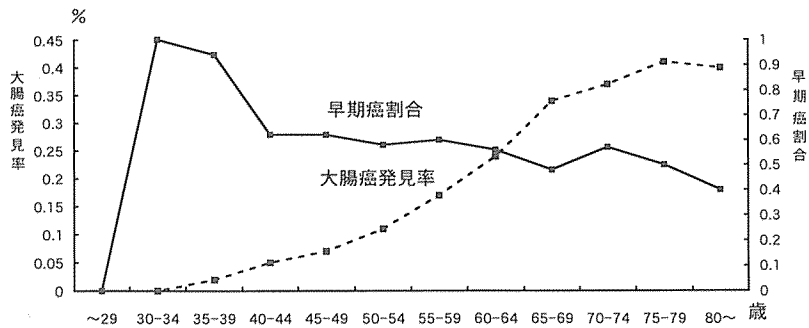


図12 大腸検診における大腸ポリープ（腺腫）および非腺腫性ポリープの発見率
(地域、職域、個人、男女計、平成4年度)

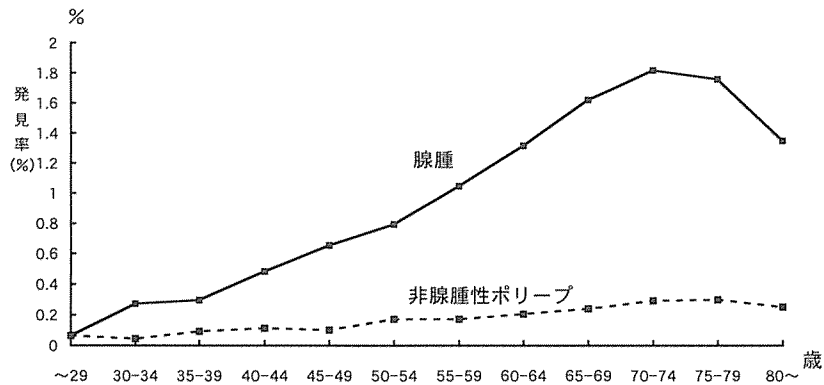


表24 大腸集検全国集計成績—男性—地域・職域、個人検診合計（平成4年度）

	総数	29以下	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80以上	70以上*
A 集検受診者数	532,348	5,488	12,979	38,386	95,113	72,563	70,546	66,669	67,149	53,512	23,327	11,120	4,530	5,833
B 要精検者数	40,898	252	605	1,944	5,505	4,785	5,067	5,581	6,364	5,453	2,636	1,288	603	565
B/A %	7.66 %	4.59 %	4.66 %	5.06 %	5.79 %	6.59 %	7.18 %	8.37 %	9.48 %	10.19 %	11.30 %	11.58 %	13.31 %	9.69 %
C 精検受診者数	24,997	149	357	945	2,981	2,555	2,757	3,383	4,287	3,892	1,909	878	343	404
C/B %	61.12 %	59.13 %	59.01 %	48.61 %	54.15 %	53.40 %	54.41 %	60.62 %	67.36 %	71.37 %	72.42 %	68.17 %	56.88 %	71.50 %
D 大腸癌	1,218	0	0	5	54	66	118	167	263	291	131	69	30	23
D/A %	0.23 %	0.00 %	0.00 %	0.01 %	0.06 %	0.09 %	0.17 %	0.25 %	0.39 %	0.54 %	0.56 %	0.62 %	0.66 %	0.39 %
うち早期癌	727	0	0	5	43	40	81	105	158	152	88	31	12	12
(有茎ポリープ患者数)	285	0	0	0	18	21	40	31	65	56	31	16	5	2
大腸癌疑い	9	0	0	0	0	0	0	3	0	5	1	0	0	0
カルチノイド	12	0	0	0	1	0	2	0	4	2	1	0	2	0
腺腫性ポリープ	6,953	3	38	119	587	630	759	1,034	1,364	1,293	612	254	89	136
非腺腫性ポリープ	1,173	5	7	49	147	100	161	165	212	180	83	34	11	19
潰瘍性大腸炎	59	1	0	6	19	4	7	8	5	5	2	0	0	0
クローン氏病	7	1	0	2	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0
大腸憩室	1,803	2	14	51	208	220	211	248	327	253	125	67	32	33
その他良性疾患	2,646	22	40	104	306	269	295	337	448	382	224	124	54	18
異常なし	10,702	113	254	583	1,632	1,216	1,141	1,363	1,561	1,441	720	326	120	148

* 70歳以上をさらに年齢区分をしていないもの

表25 大腸集検全国集計成績—女性—地域・職域，個人検診合計（平成4年度）

	総 数	29 以下	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80 以上	70以上*
A 集検受診者数	773,968	6,867	11,988	37,183	111,171	98,390	110,892	125,876	116,814	88,708	36,532	15,014	5,844	6,115
B 要精検者数	47,431	508	692	1,995	5,772	5,318	6,084	7,648	7,544	6,313	2,971	1,377	579	524
B/A %	6.13 %	7.40 %	5.77 %	5.37 %	5.19 %	5.41 %	5.49 %	6.08 %	6.46 %	7.12 %	8.13 %	9.17 %	9.91 %	8.57 %
C 精検受診者数	32,420	161	390	1,210	3,500	3,334	4,172	5,377	5,677	4,680	2,241	965	259	394
C/B %	68.35 %	31.69 %	56.36 %	60.65 %	60.64 %	62.69 %	68.57 %	70.31 %	75.25 %	74.13 %	75.43 %	70.08 %	44.73 %	75.19 %
D 大腸癌	891	0	1	12	44	59	88	154	187	189	90	39	12	16
D/A %	0.12 %	0.00 %	0.01 %	0.03 %	0.04 %	0.06 %	0.08 %	0.12 %	0.16 %	0.21 %	0.25 %	0.26 %	0.21 %	0.26 %
うち早期癌	437	0	1	11	18	37	39	86	95	80	38	23	5	4
(有茎ポリープ患者数)	141	0	0	2	7	21	18	33	30	17	6	5	2	0
大腸癌疑い	15	0	0	0	1	0	3	1	3	7	0	0	0	0
カルチノイド	15	0	0	0	3	0	3	1	4	2	0	2	0	0
腺腫性ポリープ	5,597	5	30	104	414	493	684	985	1,060	1,016	477	206	51	68
非腺腫性ポリープ	987	3	4	21	83	73	150	166	164	161	92	44	15	11
潰瘍性大腸炎	94	3	2	1	8	15	12	16	14	15	7	0	1	0
クローン氏病	9	0	0	0	1	0	0	5	3	0	0	0	0	0
大腸憩室	1,792	1	23	50	161	166	223	260	297	306	140	101	20	42
その他良性疾患	3,315	23	48	109	328	329	398	588	620	471	253	82	32	20
異常なし	19,308	120	282	879	2,405	2,164	2,545	3,136	3,290	2,463	1,158	483	126	217

* 70歳以上をさらに年齢区分をしていないもの

表26 地域大腸集検全国集計成績—男性—（平成4年度）

	総 数	29 以下	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80 以上	70以上*
A 集検受診者数	268,722	1,174	2,791	10,245	35,751	23,700	26,908	32,362	49,761	45,191	20,758	10,161	4,197	4,882
B 要精検者数	22,793	63	154	566	2,213	1,569	1,900	2,740	4,628	4,503	2,331	1,143	561	395
B/A %	8.48 %	5.37 %	5.52 %	5.52 %	6.19 %	6.62 %	7.06 %	8.47 %	9.30 %	9.96 %	11.23 %	11.25 %	13.37 %	8.09 %
C 精検受診者数	15,427	37	121	336	1,290	965	1,140	1,783	3,281	3,319	1,729	802	319	287
C/B %	67.68 %	58.73 %	78.57 %	59.36 %	58.29 %	61.50 %	60.00 %	65.07 %	70.89 %	73.71 %	74.17 %	70.17 %	56.86 %	72.66 %
D 大腸癌	842	0	0	4	18	20	44	79	195	256	117	66	28	15
D/A %	0.31 %	0.00 %	0.00 %	0.04 %	0.05 %	0.08 %	0.16 %	0.24 %	0.39 %	0.57 %	0.56 %	0.65 %	0.67 %	0.31 %
うち早期癌	456	0	0	4	12	9	25	48	113	123	75	30	11	6
(有茎ポリープ患者数)	201	0	0	0	5	10	12	22	55	47	29	16	5	0
大腸癌疑い	8	0	0	0	0	0	0	2	0	5	1	0	0	0
カルチノイド	4	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0
腺腫性ポリープ	4,339	1	8	39	225	193	311	497	1,024	1,097	542	217	84	99
非腺腫性ポリープ	597	0	3	11	42	26	50	71	137	138	73	28	9	9
潰瘍性大腸炎	32	1	0	2	9	1	4	6	4	4	1	0	0	0
クローン氏病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大腸憩室	1,031	0	8	12	80	83	75	117	219	208	116	62	30	21
その他良性疾患	1,646	7	18	34	139	104	120	186	330	323	202	118	47	12
異常なし	6,814	28	83	229	772	525	531	826	1,322	1,273	670	307	114	124

* 70歳以上をさらに年齢区分をしていないもの

早期大腸癌の割合は、昨年度よりも増加し、加齢とともに減少していた。（図11）。

大腸腺腫の発見率は0.96%で、これは大腸癌の6.4倍の頻度であり、発見率は加齢とともに上昇していた。非腺腫性ポリープの発見率は0.17%で、大腸癌とほぼ同様の発見率であった。加齢との関係は幾分みられたが、大腸癌や腺腫ほど明確ではなかった（図12）。

性・年齢階級別の大腸集検全国集計成績を表24、25に示した。男の受診者年齢層のピークは40歳代前半、女は50歳代後半であった。大腸癌発見率は男0.23%、女0.12%であった。

地域住民を対象とした大腸集検の全国集計成績を、表26、27に示す。受診者のピークは男女とも60歳代前半であった。大腸癌発見率は男0.31%、女0.13%であった。

4. 発見大腸癌の追跡調査成績

1) 平成4年度の受診者1,851,107人から発見された大腸癌は2,793例、うち深達度や病理組織診断などのデータが得られた数（個人票の形で送られてきたもの）は2,114例、追跡率75.7%であった。なお、以下に述べる各表の割合は、該当項目未記入のものを除いたため合計数が異なり、したがって、分母は異なる。59.8%が初回受診者、28.7%は1年前受診者で

表27 地域大腸集検全国集計成績—女性—（平成4年度）

	総 数	29 以下	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80 以上	70以上*
A 集検受診者数	603,311	1,833	5,534	20,750	77,150	68,320	81,918	102,751	103,085	81,176	34,420	14,316	5,657	5,096
B 要精検者数	37,601	141	332	1,162	4,008	3,742	4,503	6,209	6,661	5,710	2,792	1,323	555	408
B/A %	6.23 %	7.69 %	6.00 %	5.60 %	5.20 %	5.48 %	5.50 %	6.04 %	6.46 %	7.03 %	8.11 %	9.24 %	9.81 %	8.01 %
C 精検受診者数	27,504	67	257	859	2,691	2,588	3,299	4,615	5,165	4,303	2,124	931	252	312
C/B %	73.15 %	47.52 %	77.41 %	73.92 %	67.14 %	69.16 %	73.26 %	74.33 %	77.54 %	75.36 %	76.07 %	70.37 %	45.41 %	76.47 %
D 大腸癌	758	0	0	7	33	48	66	126	157	174	84	37	12	14
D/A %	0.13 %	0.00 %	0.00 %	0.03 %	0.04 %	0.07 %	0.08 %	0.12 %	0.15 %	0.21 %	0.24 %	0.26 %	0.21 %	0.27 %
うち早期癌	354	0	0	6	9	29	22	72	78	74	36	21	5	2
(有茎ポリープ患者数)	109	0	0	0	4	14	10	29	25	15	6	4	2	0
大腸癌疑い	13	0	0	0	0	0	3	0	3	7	0	0	0	0
カルチノイド	13	0	0	0	3	0	3	1	2	2	0	2	0	0
腺腫性ポリープ	4,799	3	12	73	302	388	543	846	946	930	451	197	50	56
非腺腫性ポリープ	782	3	4	11	62	43	103	136	144	133	84	41	15	3
潰瘍性大腸炎	83	1	0	1	6	14	9	15	14	15	7	0	1	0
クローン氏病	5	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0
大腸憩室	1,442	0	10	38	98	113	157	212	259	276	130	95	20	34
その他良性疾患	2,894	14	39	80	269	263	323	507	581	445	244	79	28	12
異常なし	16,502	46	191	631	1,894	1,700	2,068	2,738	3,038	2,285	1,102	471	124	185

* 70歳以上をさらに年齢区分をしていないもの

表28 検診発見大腸癌の受診前歴
(男女計, 平成4年度)

発見大腸癌	2,793 名
追跡調査患者	2,114 名
追跡率	75.7 %
初回受診者	1,161 名 (59.8 %)
1 年前 "	557 名 (28.7 %)
2 年前 "	135 名 (7.0 %)
3 年前 "	32 名 (1.7 %)
4 年以上前 "	54 名 (2.8 %)
計	1,939 名 (100.0 %)

表29 治療の方法
(男女計, 平成4年度)

手術	1,123 (55.1 %)
内視鏡的治療	902 (44.3 %)
その他	13 (0.6 %)
計	2,038 (100.0 %)

あった(表28)。

2) 治療の方法

手術を行ったもの1,123例(55.1%),内視鏡治療は902例(44.3%)であった(表29)。

3) 手術の種類

手術のうち結腸切除術が677例(64.8%),直腸切除術が252例(24.1%),人工肛門を造設した直腸切

表30 手術の種類
(男女計, 平成4年度)

結腸切除	677 (64.8 %)
直腸切除	252 (24.1 %)
直腸切断 (人工肛門造設)	70 (6.7 %)
その他	46 (4.4 %)
計	1,045 (100.0 %)

表31 癌病巣の数
(男女計, 平成4年度)

単発	1,888 (91.2 %)
2 個	136 (6.6 %)
3 個	27 (1.3 %)
4 個以上	19 (0.9 %)
計	2,070 (100.0 %)

断術は70例(6.7%)であった(表30)。

4) 癌病巣の数

単発は1,888例(91.2%),多発は182例(8.8%)であった(表31)。

5) 占居部位

発見大腸癌の占居部位は2,160例(重複)中,最も多いのがS状結腸で910例(42.1%),ついで直腸の664例(30.7%),以下上行結腸221例(10.2%),横行結腸157例(7.3%),下行結腸142例(6.6%)の順

であった(表32)。

6) 大腸癌の肉眼分類

早期癌では、I p 型が680例(50.3%)で過半数を占め、II c 型は21例(1.6%)のみであった(表33)。進行癌では2型が533例(71.8%)で最も多く、4型は2例(0.3%)のみであった(表34)。

7) 大きさと環周度

直径1.0cm以下のもの589例(29.9%), 1.1~2.0cm

が627例(31.8%)と2cm以下が過半数を占めた(表35)。環周度は1/3以下が1,089例(67.4%)で過半数を占めたが、全周も109例(6.7%)に認められた(表36)。

8) Stage 分類

Stage I は1,172例(69.2%), Stage II は197例(11.6%), Stage III は191例(11.3%), Stage IV は77例(4.6%), Stage V は55例(3.3%)であった(表37)。

9) 深達度分類

Ca-in-situ は459例(22.7%), m癌は576例(28.4%), sm癌は316例(15.6%), これら3者の合計で66.7%を占めた。進行癌を深達度別にみると, pm は206例(10.2%), ss (a1) 314例(15.5%), s (a

表32 癌病巣の部位

(男女計, 平成4年度)

部 位	例 数
肛 門 管 (P)	8 (0.4 %)
直 腸 (R)	664 (30.7 %)
S 状結腸 (S)	910 (42.1 %)
下行結腸 (D)	142 (6.6 %)
横行結腸 (T)	157 (7.3 %)
上行結腸 (A)	221 (10.2 %)
盲 腸 (C)	56 (2.6 %)
虫 垂 (V)	2 (0.1 %)
計	2,160 (100.0 %)

表33 早期大腸癌の肉眼分類

(男女計, 平成4年度)

Ip	680 (50.3 %)
Isp	209 (15.5 %)
Is	247 (18.3 %)
Ila	119 (8.8 %)
Ila+Ilc	53 (3.9 %)
Ilb	2 (0.1 %)
Ilc	21 (1.6 %)
III	2 (0.1 %)
その他	19 (1.4 %)
計	1,352 (100.0 %)

表34 進行大腸癌の肉眼分類

(男女計, 平成4年度)

1 型	122 (16.4 %)
2 型	533 (71.8 %)
3 型	80 (10.8 %)
4 型	2 (0.3 %)
5 型	5 (0.7 %)
計	742 (100.0 %)

表35 大腸癌の大きさ(直径)

(男女計, 平成4年度)

大きさ (cm)	病巣数
～ 1.0	589 (29.9 %)
1.1 ～ 2.0	627 (31.8 %)
2.1 ～ 3.0	292 (14.8 %)
3.1 ～ 4.0	185 (9.4 %)
4.1 ～ 5.0	139 (7.0 %)
5.1 ～ 6.0	59 (3.0 %)
6.1 ～	81 (4.1 %)
計	1,972 (100.0 %)

表36 大腸癌の環周度

(男女計, 平成4年度)

1/3 以下	1,089 (67.4 %)
1/2 以下	206 (12.7 %)
3/4 以下	115 (7.1 %)
3/4 以上	98 (6.1 %)
全 周	109 (6.7 %)
計	1,617 (100.0 %)

表37 大腸癌の Stage 分類

(男女計, 平成4年度)

Stage I	1,172 (69.2 %)
Stage II	197 (11.6 %)
Stage III	191 (11.3 %)
Stage IV	77 (4.6 %)
Stage V	55 (3.3 %)
計	1,692 (100.0 %)

2) 125例 (6.2%), si (ai) 28例 (1.4%) であった (表38)。

10) Dukes 分類

Dukes A は1,119例 (71.8%), Dukes B は200例 (12.8%), Dukes C は240例 (15.4%) であった (表39)。

11) 転移の有無

表38 大腸癌の深達度
(男女計, 平成4年度)

Ca-in-situ	459	(22.7 %)
m	576	(28.4 %)
sm	316	(15.6 %)
pm	206	(10.2 %)
ss(a1)	314	(15.5 %)
s (a2)	125	(6.2 %)
si (ai)	28	(1.4 %)
計	2,024	(100.0 %)

表39 大腸癌の Dukes 分類
(男女計, 平成4年度)

Dukes A	1,119	(71.8 %)
Dukes B	200	(12.8 %)
Dukes C	240	(15.4 %)
計	1,559	(100.0 %)

表40 転移の有無
(男女計, 平成4年度)

	a. リンパ節転移	b. 遠隔転移
なし	1,375 (83.4 %)	1,436 (97.0 %)
あり	273 (16.6 %)	44 (3.0 %)
計	1,648 (100.0 %)	1,480 (100.0 %)

表41 大腸癌の組織型分類
(男女計, 平成4年度)

高分化腺癌 (well)	1,476	(76.6 %)
中分化腺癌 (mode)	394	(20.4 %)
低分化腺癌 (por)	26	(1.4 %)
未分化癌 (undiff)	0	(0.0 %)
粘液癌 (muc)	14	(0.7 %)
印環細胞癌 (sig)	0	(0.0 %)
特殊型	17	(0.9 %)
計	1,927	(100.0 %)

リンパ節転移ありは1,648例中273例(16.6%), なしは1,375例(83.4%)であった。遠隔転移ありは1,480例中44例(3.0%), なしは1,436例(97.0%) であった (表40)。

12) 組織型分類

病理組織検査を行った1,927例中, 高分化腺癌が1,476例(76.6%)で最も多く, ついで, 中分化腺癌が394例(20.4%)であった(表41)。

以上, 大腸検診の全国集計の概要を述べたが, 今回の大腸検診全国受診者総数の約180万人は, 昨年度に比べ大きく増加していた。大腸集検の定義, 特に地域検診か職域検診かの区別が不明確のままの調査であったため, 今回の集計は前回と同様個人検診の数もすべて一緒にして集計した。

表42 食道集検の全国集計成績 (平成4年度)

受診者総数	414,327 人
男	267,825 人 (64.6 %)
女	139,111 人 (33.6 %)
性別不明	7,391 人 (1.8 %)
発見疾患と発見率	
食道癌	30 名 (0.007 %)
食道ポリープ	213 名 (0.05 %)
食道潰瘍またはびらん	87 名 (0.02 %)
静脈瘤	127 名 (0.03 %)
その他の疾患	1,486 名 (0.36 %)

表43 肝胆膵集検の全国集計成績 (平成4年度)

受診者総数	645,820 人
男	364,648 人 (56.5 %)
女	240,834 人 (37.3 %)
性別不明	40,338 人 (6.2 %)
発見疾患と発見率	
肝癌 (原発性)	109 名 (0.02 %)
肝癌 (転移性)	19 名 (0.003 %)
肝硬変症	309 名 (0.05 %)
脂肪肝	42,172 名 (6.53 %)
肝嚢胞	28,736 名 (4.45 %)
胆嚢癌	32 名 (0.005 %)
胆嚢ポリープ	29,267 名 (4.53 %)
胆石症	14,876 名 (2.30 %)
膵 癌	46 名 (0.007 %)
膵石症	74 名 (0.01 %)
膵嚢胞	647 名 (0.10 %)
その他	34,950 名 (5.41 %)

III 食道集検および肝胆膵集検全国集計

1. 食道集検

食道集検は全国で48の機関で行われており、受診者総数は414,327人であった。また、発見食道癌は30例（0.007%）、食道ポリープ213例（0.05%）、食道潰瘍またはびらんが87例（0.02%）、静脈瘤は127例（0.03%）であった（表42）。

2. 肝胆膵集検

肝胆膵集検は、全国72の機関で実施され、受診者総数は645,820人であった。発見疾患は、脂肪肝6.5%、肝嚢胞4.5%、胆嚢ポリープ4.5%、胆石症2.3%であり、少数例ではあるが肝硬変症309例（0.05%）、原発性肝癌109例（0.02%）、胆嚢癌32例（0.005%）、膵癌46例（0.007%）等が発見された（表43）。

IV まとめ

平成4年度の消化器集検全国集計について要約す

ると以下ようになる。

(1)胃集検については、受診者総数が600万人弱で、前年度比-4.1%、約26万人の減少、要精検率は13.2%、精検受診率72.5%、発見胃癌は6,252例（発見率0.10%）であった。早期癌の割合は、発見胃癌のうち53.7%であった。地域集検は、全体の約53%の319万人であった。

(2)大腸集検は全国で約185万人、前年度比+75.9%、約80万人の増加、要精検率6.55%、精検受診率62.0%、発見大腸癌2,793例（発見率0.15%）、早期癌の割合は58.9%であった。

なお、アンケートの回答をおよせいただいた全国の検診機関、および学会の役職員や事務局の方々、各県の全国集計協力委員、認定医の先生方の絶大な協力に対して厚く御礼申し上げます。

本稿で発表できなかった集計資料は、平成4年度消化器集団検診全国集計資料集（1部2,800円、送料別）としてまとめてありますので、ご希望の方は学会事務局までお申し込み下さい。